

思ひますか。
それが正解だと
思ひますか。
会員の皆様は
いたしました。
野県で山岳遭難
が発生したその日
の天候は? 雪の
日、雨の日、晴れ
の日の割合を3
択方式で選んで
いただきました。

者が集まるイベン
ト会場でクイズを
行ないました。
「平成24年に長
野県で山岳遭難
があつたその日
の天候は?」雪の
日、雨の日、晴れ
の日の割合を3
択方式で選んで
いただきました。

山岳遭難が急増!! 4年連続で最多更新

長野県・長野県山岳遭難防止対策協会

誤つて伝わっている山岳遭難のイメージ

(表1)

遭難したその日の天候の割合(平成24年)

(単位: %)

	吹雪・雪	雨・霧・雷雨	晴・曇	不明	回答(人)
A	7.9%	1.3%	4%	4%	9
B	1.8%	4.3%	3.5%	4%	48
C	4%	1.3%	7.9%	4%	43

57%

正解はC。長野県で発生した山岳遭難の約8割は晴れや曇りの日に発生しています。AやBのいわゆる「気象遭難」を想像した方が57%。登山愛好者の回答にもかかわらず半数以上が不正解でした。

「晴れなのに、何で遭難しちやつたの?」「油断してたのかな?」といった疑問に答えたいたいと思います。

登山者は約73万人で平成21年に比べ40%増加しました。一方、この間の遭難件数は73%増加し、ついに300件となってしまいました。

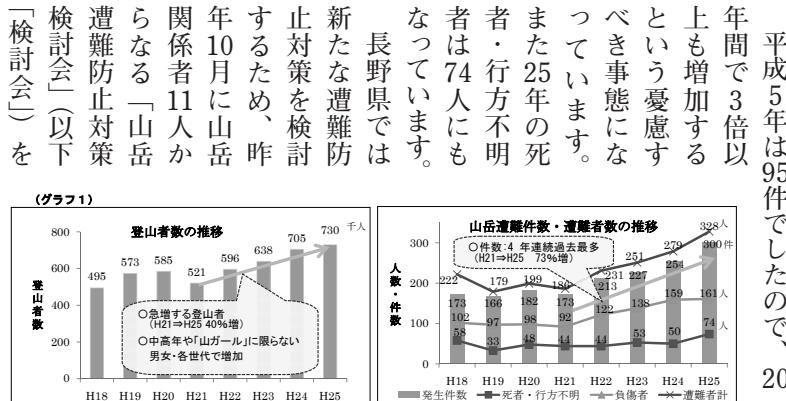
長野県では新たな遭難防止対策を検討するため、昨年10月に山岳関係者11人からなる「山岳遭難防止対策検討会」(以下)を設置し、座長には日本山岳会副会長で、トムラウシ山遭難事故調査特別委員会の座長を務められた節田重節氏にお願いしました。

検討会では近年の事故多発要因をまず分析しました。

①遭難者の8割が中高年登山者

平成25年夏の長野県の調査によると、登山者の約6割が40歳以上の中高年者でしたが、遭難者では約8割を中高年者が占めていました。特に「遭難のお年ごろ」は遭難者全体の約30%を占める60代で、次いで50代(17%)、40代(16%)でした。

中高年登山ブームが続いているが、団塊世代が60代半ばを迎える現在は、「高齢者登山」の時代に入りました。



▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木……………10~20時
水・金……………13~20時
第2、第4 土曜日……………閉室
第1、第3、第5 土曜日……………10~18時



2014年(平成26年)

4月号(No.827)

公益社団法人
日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に
含まれていますURL ● <http://www.jac.or.jp>
e-mail ● jac-room@jac.or.jp

目 次

山岳遭難が急増!! 4年連続で最多更新	1
祝日「山の日」法案 衆院提出	4
支部事業補助金について	5
ちょいと渋い山岳講演会	6
チベット遠征登山勉強会のご案内	7
にぎやかなこの春の山岳映画	8
110周年記念海外登山隊の募集	10
東西南北	11
支部ルーム開設	
支部だより	12
福岡支部／北九州支部	
図書紹介	13
図書受入報告	14
会務報告	15
ルーム日誌	16
会員異動	17
新入会員	17
INFORMATION	18
日本山岳会所蔵資料紹介 No.10	19

この世代の特徴は、若いころの成功体験と現在の体力や健康とのギャップを十分に認識していない方が多く、特に下山時に転落・滑落・転倒するケースが多くなっています。加齢とともに体力や筋力が落ち、リスクが高まるなどを自覚する必要があります。

昨年は特に心疾患による死亡事故が目立ち、13人の中高年登山者が亡くなっています。なお、家族からの聞き取りでは、全員心臓病の既往症はないとのことでした。

富士山の「弾丸登山」が話題になりましたが、登山はスポーツです。コンディションを整えないまま普段行なっていない長時間の登山で心臓に負担をかけ続けることの危険性を物語っています。

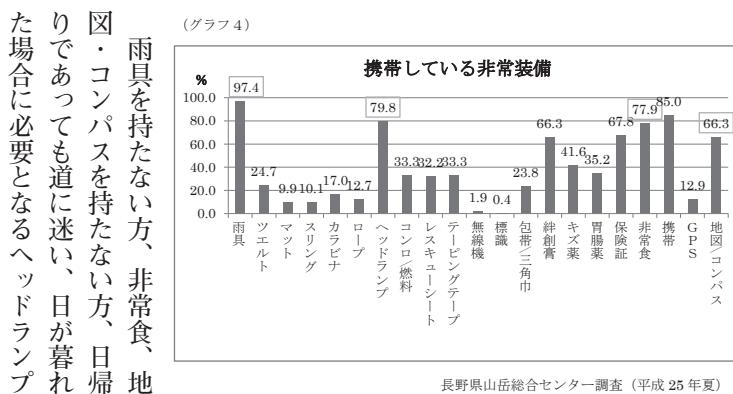
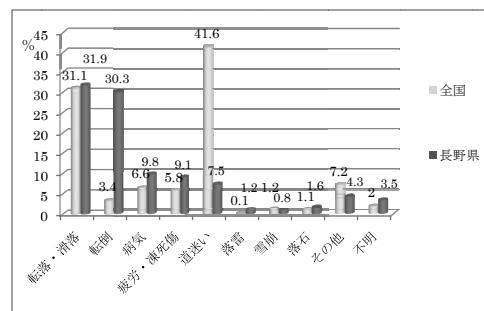
(グラフ2)
年代別の発生状況(平成25年)

年代	割合
70歳以上	13%
60代	31%
50代	17%
40代	16%
30代	12%
20代	6%
10代	5%

(②)技術・知識の乏しい初心者
昨年夏、県内各山域で登山者の登山経験年数を調査したところ、2年未満という方が約3割でした。つまり1年前のシーズンから登山を始めたという初心者が、長野県の急峻な山岳にチャレンジしているという実態がわかりました。

ちなみに、「登山デビューはどこ?」と尋ねたところ、ほとんどの方が富士山と回答。3776mの

(グラフ3)
山岳遭難の態様別の全国対比(平成24年)



山に登れたから、次は北アルプスの3000m級を目指すという登山者に何人も出会いました。

また、山岳に関する情報の入手方法を尋ねたところインターネットや雑誌が中心で、山岳会等の組織に属さないため、経験者から実戦的な学習や訓練を受ける機会は少ないとのことでした。さらに、非常用の携行装備品を尋ねたところ次のような結果でした。

登山は生命の危険と隣合わせの山に自ら入る行為であるため、「自己責任」が原則ですが、観光旅行の延長で気軽に訪れることができる登山のレジャー化により、この意識が希薄になっているとの指摘が多くの委員からありました。

最終責任は自ら負うしかない危険な山域に自ら入るという認識に乏しい登山者の現状を紹介します。

上高地から歩いて3時間の横尾は、槍ヶ岳、穂高連峰、蝶ヶ岳等への分岐点です。昨年夏、週末を中心24日間ここで登山者に対する情報提供と相談活動を行ないました。そこで登山者に平成24年の槍・穂高連峰の遭難件数・死亡者数と遭難場所をプロットした地図を示しました。年間の「遭難件数70件・死亡事故9件」には、ベテラン登山者も初心者も一様に大きなショックを受けたようでした。「こんな

を携帯しない方など、登山の基本的な知識のない方が一定数いたことは驚きもありました。

③危険意識の欠如した登山者

検討会で一番議論となつたのは、山の世界では当然のように受け継がれてきた「自己責任」についてでした。

登山は生命の危険と隣合わせの山に自ら入る行為であるため、「自己責任」が原則ですが、観光旅

に遭難つて起こつてゐるの！」
「こんなに亡くなつてゐるんですか！」と。

自分がこれから行く山域が命の危険と隣合わせの場所であること多くの人が認識していません。

遭難増加の本当の理由

気象遭難は大量遭難になるケースも多く大きく報道されますが、単発の登山日和の遭難はあまり取り上げられません。その結果、一般的に、山岳遭難は悪天候により発生するとの誤ったイメージが強くなつてゐると思われます。

これまで紹介してきたように、遭難の本当の原因は次のように考えられます。

- ①命の危険と隣合わせの山域に入っているという覚悟が乏しいまま入山している。
- ②ネット等の成功体験や過去の登山経験をベースにし、現在の登山力量に合わない山選びをしている。
- ③系統的に登山者の登山力量を高める仕組みが社会的に十分整つていない。

自然への関心や健康志向の高まりから登山を始める方は増えていますが、同時に、体力や知識、技術が十分でない登山者の増加にも

繋がつてゐます。一方で、山の厳しさは昔も今も変わっていません。

自分で考え、判断し、行動できる総合的な登山力量を身に付け、

安全で楽しい登山ができるよう、一人一人の登山者の研鑽・努力と

それをサポートする体制が必要と

言えます。

検討会報告書の中で座長の節田重節氏は「山を敬い、山を畏れる、謙虚な姿勢こそが登山者を護つてくれる」と信じている」との言葉を寄せてくださいました。

遭難防止対策の方向性

検討会からは県や登山関係団体が今後講ずるべき対策の方向性をご提言いただきました。その主なものを紹介します。

- ①登山者の情報入手ツールに対応した情報提供

- ①インターネットや情報誌、また、登山に関わる企業を通じた情報提供
- ②登山力量に応じた登山計画作成のための支援

- ③リスクをリアルに認識させる啓発・周知
- 別難易度（グレーディング）の作成・周知
- ④遭難リスクマップや山岳ルート
- ⑤登山安全教育の推進

(4)高齢者、単独登山者への注意喚起
登山口などでの登山者へ直接指導の充実と、高齢者や単独登山者の遭難実態の周知

（長野県山岳総合センター）が実施する安全登山講座の充実や、県が委嘱した山岳遭難防止アドバイザーの派遣による安全登山啓発遵守すべきルール・マナーの普及

検討会からは、登山者が遵守すべきルールやマナーを具体的にまとめ、普及させることを提言されました。従来は登山者の多くは地域、職場、学校の山岳会などに所属し、系統的・体系的に山や登山の知識を学び、先輩との山行において実戦的な登山力量を高め、併せて山中における危機管理能力を高めてきました。

長野県・県遭対協では皆様の登山をサポートさせていただきます

が、皆様には、ぜひこの3つの約束を胸に、安全に山を楽しんでいただきたいと思います。

なお、長野県では、前述したとおり、「長野県山岳総合センター」（大町市）において登山の入門コースからリーダーコースまで26年度は55講座を開講します。安全登山のための知識・技術の習得、ステップアップに多くの皆様のご参加をお待ちしています。

また、様々な団体が開催する全登山講習会を支援するため、県遭対協では「山岳遭難防止アドバイザー」の派遣を行なつておりますので、ご活用ください。

に提示し、これを普及させることで登山者の安全意識の向上を促すべきとの提言です。

おわりに

長野県遭難防止対策協会（遭対協）では、山岳救助をテーマにした漫画『岳』の主人公・島崎三歩を遭

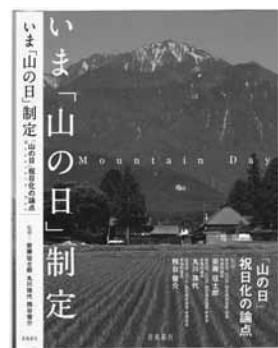
対協の「特別隊員」に委嘱し、登山者に「3つの約束」を呼び掛けています。「山を汚さない！」「人に迷惑をかけない！」「無事家に帰る！」です。

長野県・県遭対協では皆様の登山をサポートさせていただきますが、皆様には、ぜひこの3つの約束を胸に、安全に山を楽しんでいただきたいと思います。

News

祝日「山の日」法案 衆院提出

—支部各地で登山関連企画の実施を—



【いま『山の日』制定】の表紙

「山の日」を国民の祝日とする法案が3月28日、超党派「山の日」制定議員連盟の自民、公明、民主など与野党9党による共同提案で衆議院に提出された。今国会(会期は6月22日まで)で成立する公算が大きい、と見られている。祝日法案の改正案は「山の日」をお盆休みに繋がる8月11日と定め、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」と意義づけている。施行は2016(平成28)年1月からで、準備期間が2年ほどある。

13年4月の発足以来、同議員連盟は14回に及ぶ総会(勉強会)を開き「山の日」制定にかかる様々な課題、問題点について関係省庁などからヒアリングし、検討を重ね

た。自然保護と山の適正利用、祝日増が中小企業に与える影響、健康新登山の楽しみなど、祝日化の論点、問題点が総チェックされた。日本山岳会など山岳5団体でつくる「山の日」制定協議会の代表もオブザーバーとして出席し、求めに応じて意見を述べた。

そうした経緯、論点、資料を議連の幹部がまとめた書籍『いま『山の日』制定』が3月12日に発刊された。山岳5団体が推した6月第1日曜日ではなく8月11日を祝日「山の日」とした選択理由についても書かれている。参考までに各支部には1冊ずつお届けした。

さて、テーマを私たち日本山岳会の「山の日」運動に移そう。今後の活動をどう展開すべきか。

立はもちろん願うところだが、単に祝日の制定で終わる運動でないことは、会員各位ご承知のとおりである。より重視したいのは『山を

尊び、山に親しみ、登山への関心を高め、美しく豊かな自然を次世代に引き継ごう』という運動開始当初からの理念の実践である。

国民的な広がりを持つこの運動のなかで(イ)登山の愛好者としてどのように山と向き合い、山の恵みに感謝するのか(ロ)いかにして他の山岳団体や行政、自治体と連携を深めるか、に焦点を当てたい。これは支部活性化プロジェクトや自然保護委員会の活動、最近スタートした家族登山の普及企画(会報2月号で報告された)などにそ

のまま結びつく課題で、現在の活動の延長線上に目標設定ができると思う。



衆議院事務総長に「山の日」法案を提出した各党議員

□ 全国協議会に入会のお願い

全国「山の日」制定協議会の個人会員(年会費一口5千円)、法人会員(同3万円)を募集しています。運営費、イベント実施などに使います。問い合わせは日本山岳ガイド協会内事務局の馬場佳子まで。

TEL ≪ 03-6457-4522
FAX ≪ 03-3358-9780
✉ ≪ baba@jfmga.com

【山の日】制定プロジェクト
萩原浩司 成川隆顕

山の日制定協議会は3月4日の臨時総会で規約を改定し、『山の日』を制定し、その意義を広く国民に伝え、「山の日」にかかる広範な分野の発展に寄与すること』と、その目的を制定後にまで広げて規定したことを付け加えておきたい。

支部事業補助金について

支部事業補助申請審査報告

森会長の肝いりで開始された支部事業補助の申請を受け付けて、内容を審議して相応しい企画を理事会に推薦する役目を「支部活性化プロジェクトチーム」が担うことになった。

2014年度の事業の受付を始めたところ早速2支部からの申請があり、1月の会議で審査の結果、2つとも申請書の内容を修正のうえ再申請をお願いした。2月の会議で再提出された案を審査の結果、理事会に対し広島支部「大学山岳部技術支援プロジェクト」を推薦し、3月の理事会で第1号として事業補助対象事業として決定した。初年度は20万円の補助を行ない、年度末の事業報告を審査して次年度の補助金額を決定する予定である。指導者のいない大学山岳部の部員で、現在の活動に満足できない若者を訓練し、若手指導者を育成するという息の長い企画を軌道に乗せて、育てた若手リーダーを軸にして若手会員の増加に寄与してもらうことを期待している。

補助金対象に採択されて

今回広島支部から申請した「大学山岳部技術支援プロジェクト」が採択され、まず、本部をはじめ日本山岳会の皆さんにお礼を述べさせていただきたい。

広島地区では12年5月から標記

今年度は良い事業補助申請があれば、4事業程度の補助を考えている。事業補助の目的である「会員増強」「リーダー育成」とともに短期間で結果の出る事業ではないことは理解している。また支部の現状を見れば、多くの支部にとつて負担が大きく不十分な補助とは思うが、山岳会は現状のまま推移すれば積極的な補助などできない状況に陥る可能性が大きい。限られた予算の中での補助金である。積極的な活動に期待して応募申請をお待ちしている。審査のポイントは、新規性、有用性、将来展開、外部資金導入の可能性などとし、申請した支部の現況も考慮する。

(支部活性化プロジェクトチーム
リーダー 宮崎紘一)



講座最終日 比婆山管理センターで(前列右から2番目および後列右から2番目が学生スタッフ)

大学にプロジェクトへの参加を呼び掛けた。広島市内で山岳部が残っている大学は2校のみで、この2校を突破口にして若い人たちへの技術支援と組織化ができるいかというのが最初の考えだつた。しかし両大学とも、年に1~2回程度のハイキングが精いっぱいの状況であり、1年目は夏山合宿への引率ということで対応した。そこで2年目は、発想を転換した。

従来広島支部は、中国新聞文化センターの登山講座に講師を派遣しており、その講座に学生スタッフとして入つてもらい、1年間(12回)一緒に山歩きを重ねることにより登山技術を身につけてもらつ

たるうかという発想だつた。簡単にいえば、お金も払う登山技術も伝授しようとするものだつた。この考えには当然批判もあり得る。なぜお金を出す必要があるのか。今の学生にとつては山岳部も仲間づくりのサークルに過ぎず、グラウンドや体育館でスポーツを楽しめればいいのだという学生の価値観に對して、技術の習得とお金が得られますよというパラダイムの転換を行なうことにより、一種のショック状況を醸し出すことをねらつた。

さらに、別の効果も生み出した。他の講座受講生の反応である。職業も様々で社会経験も十分に積んだ人々である。夜、テントの中でいろいろな話を聞いたりすることで、学生にとつては人生経験の追体験ができたようである。

今後の展望は、これら学生がとなり、すでに立ち上がった学生クラブにその成果を委ねることになる。そのことが、今回の申請における真骨頂である。とにかく今、大きく羽ばたくだけの技術は確実に身につけたようだ。

(広島支部学生クラブ

担当 渡辺勝俊

Lecture

ちよいと渋い山岳講演会

千葉支部 増山 茂

2014年2月5日午後6時、有楽町二ユーステラ・トーキョー本店ビル9階「ラ・ステラ」にて、ちよいと渋い山岳講演会が行なわれた。講師はイタリア人の二人。最初は、ルッジエロ・モンテサーノ。題して「わが友ワルター・ボナッティとわが山人生」2番目の講師は、ジョゼッペ・ペティゴー。語るは「曾祖父からの4代目クルマイユール山岳ガイド物語とエベレスト頂上測量記」

このお二人をご存じの方はかなりの山岳オタクと自認してもよからうが、そのオタクが40人もいたことにびっくり。

2009年4月25日、第17回ピオレドール賞では、谷口ケイ、平出和也(インドのカメット南東壁)

夫妻など98年の来日対応関係者が黒木が招待する側であった。今回の講演会参加者に熊崎和宏・皆子の世紀の美女たるその妻は昨年、この世に別れを告げた。ルッジエロ・モンテサーノは現在の登山界に及ぼした彼らとの交友史を語った。

ルッジエロ・モンテサーノが住む、モンブランを北に仰ぐクルマイユールは日本でいえば芦嶺である。ジョゼッペ・ペティゴー(Giuseppe Petigax)65歳は、曾祖父の代から4代続くクルマイユール登山ガイドの嫡嗣。曾祖父が始め、祖父が組合会長としてその基礎を固めた、19世紀に遡るクルマイユール登山ガイド組合の歴史を淡淡と語る。

その生涯を通じて、ボナッティ・ペティゴーが特別賞を受賞していることは皆さまご存じだろうか。それらの受賞の実質的な決定は、その前夜、委員長のダグ・スコットの尽力が大きかった。日本山

岳会会員である黒木は、東京大学医科学研究所教授・岐阜大学学長も務めた本邦有数のガン研究者である。世界的なガン学者でありWHOのガン専門官も務めるルッジエロ・モンテサーノとは、互いに若き30歳代にリヨンのWHO研究所で机を並べて以来の研究仲間なのであるが、クルマイユールと旭川で毎年パウダースキーを楽しみ交流する山仲間でもある。今年は黒木が招待する側であった。今回

の講演会参加者に熊崎和宏・皆子夫妻など98年の来日対応関係者が多いのも当然であろう。天才クライマーの夫は2年前に、世紀の美女たるその妻は昨年、この世に別れを告げた。ルッジエロ・モンテサーノは現在の登山界に及ぼした彼らとの交友史を語った。

1992年、イタリアのエベレスト遠征隊メンバーに選ばれる。かれの矜持はエベレスト無酸素登頂の試みであり、彼の仕事は頂上に主催者である竜崇正や大倉久直の証言である。このピオレドール前夜祭の2次会のメインゲスト兼ホステスはボナッティの奥方である往年のハリウッド女優で世界一の美女と謳われたロッサン・ボデスタであった。

1992年、イタリアのエベレスト遠征隊メンバーに選ばれる。かれの矜持はエベレスト無酸素登頂の試みであり、彼の仕事は頂上に

測量用のポールを設置することである。後者を完全にするため、そ

して遭難者の救助作業のため無酸素登頂こそならなかつたが、隊員

ジョゼッペ・ペティゴーの評価は高い。このイタリア隊の留置した

測量用三角ポール、これを用いて計測した新しい標高8850米と併せて、良く言つものは少ない。けれどこのポールは、とある世界初の偉業を担保したのである。

93年冬、群馬県山岳連盟によるエベレスト南西壁冬季初登頂が試みられた。12月18日、名塚・後藤が登頂に成功。翌日以降、田辺・江塚・尾形・星野が続いた。誰もが拍手喝采は惜しまなかつたが、本当にホントなの?とも思った。当然だろう、冬の南西壁なのだ。ヒマラヤ登頂をウォッチし続けるカトマンズ在住のエリザベス・ホーリーも同様であつた。カトマンズに戻ってきた隊員にホーリーは聞く。

ホーリー「頂上に何があつたの?」

尾形好雄「アンテナのような銀色

のポールがありました」

Montesano)74歳は、モンブラン・イタリア側山麓のクルマイユール在住。かのワルター・ボナッティの親友。1998年、ボナッティ夫妻がJACを含む山岳団体の招きで来日し各地で講演会を行なつたが、これには日本側黒木登志夫、イタリア側ルッジエロ・モンテサーノの尽力が大きかつた。日本山

の前夜、委員長のダグ・スコット

ホーリー 「そのポールは立つていましたか？」

尾形「いや、倒れていました」

その答えを聞いたホーリーは満面の笑みを浮かべて「登頂成功、おめでとう」と手を差し伸べた。そのとき、尾形は一枚の写真を見せられた。群馬隊の前に登頂した隊が撮影した頂上の写真だ。そこには尾形が説明したとおりの風景が写っていた（朝日新聞2011年9月26日、近藤幸夫より）。

「あのポールが、我々の世界初を担保してくれたんですよ」と、このエベレスト南西壁冬季隊の隊長を務めた講演会参加者、八木原は語るのであつた。

ルッジエロ・モンテサーノが語るボナッティ物語やジョゼッペ・ペティゴーのエベレスト物語の講演会を、黒木や竜や大倉が日本で組織するのはまさしく縁起というものである。古今東西の山世界は多彩な糸で結ばれている。



いを持つております。

特別な講師を呼んでの講演などは今のところ計画しておりません。

勉強会の進み具合によって、エリアの精通者や、高所医療&気象などの専門家にお願いして、登山を

目指す企画も考えております。

初めて高所登山に向かう皆さまには、今までの登山方法や実績

から、6～7000m級の山々をご紹介し、さらに必要とされるロ

ープワーク・岩と雪のレスキュー技術も、現役の救助隊員からの指導を求めるることができます。

まずはお気軽にご連絡ください。
海外委員会・チベット勉強会
田口憲司

天空の地・チベットにて登山を行ないたい！ 大先輩・中村保氏が長年探検された東チベットに歩を進め、登山にて報いたい！ こんな思いを持つ皆さまと共に「勉強会」を開催します。

海外委員会には、ロシア・ネパール・韓国・南米の山々などに精通したメンバーがおり、さらに新たな委員も集めております。

その中から、2001年より若手＆学生とJ-EXPチームとしてチベット継続遠征登山を実践し

ている田口憲司委員を中心に、東チベット偵察・登山経験のある加藤晴久・片岡泰彦委員を加え、難しい要素を含んだこの地を選んでの第一弾を実施します。

登山を目指した勉強会も、半年単位で1990年代より、J-EXPチームでは継続実施してまいりました。

遠征準備会としての位置づけであります。あり、東京農大・東北大・シルバーティートル・都岳連などのOBに加え、立大・早大・理科大・駿河

台大など山岳部・WV部・山の会などから現役も加わり、企業内クラブからも、りそな銀行や川崎市役所山岳部、そしてJAC同好会からも加わっております。

この実績とノウハウを活かし、広く、JAC会員のみならず山岳界全般から参加してもらつての立ち上げを図ります。

山登り経験の浅い深いは関係ありません。この地に行つてみたい、この地の登山をしたい。行つたことがあります。皆さんに伝えたいことがある。このような熱意ある皆さまに集まつていただき、交流を深めながら、結びには、登山のできる小さな、いくつのプロジェクトチームを育てたい、支援したいとの思

Culture

にぎやかなこの春の山岳映画

神長幹雄

今春、山岳映画の話題作が続けて上映される。新作もあるし、期間限定で山岳映画特集として再上映されるものもある。4月から5月の「ゴールデンウイークにかけて、山は新緑や残雪に輝くひとときわ美しい季節を迎えるが、これだけ山の映画がそろうと、映画好きの山好きにはとても悩ましい選択を迫られることになりそうだ。もちろん、山でまさにリアルな体験を積むのものだらうが、劇場で山に思いを馳せる楽しさも捨てがたいものだ。

ところで、ちょっと映画から離れて、活字の世界における小説とノンフィクションの関係について考えてみよう。小説は作りものだが、それだけにドラマ性を強調したエンターテインメントとしての楽しみもある。一方、ノンフィクションには、事実に裏付けられた圧倒的な強さがあるはずだ。どちらも優劣つけがたく、各自の嗜好によつて楽しめばいいのだが、映画の世界となると少し趣向も異なつてくる。

特に山岳映画の場合、「作りも

の」だからこそできる幅の広がりがあると言えないだろうか。制作者によって脚色され、さらに誇張されドラマ化された娯楽映画は、「作りもの」だから安心して見ていられるという利点もある。ドキュメンタリーに比べてもおおらかなのである。そこに生死の境を彷徨うドラマ性が加味され、さらに劇場用の大画面となれば、自然や山そのものが持つ映像の美しさや動画の迫力と相まって、私たちもいつともだやすく山岳映画の虜になつてしまふに違ひない。

世界最高峰エベレストと第2の高峰K2の初登頂を描いた話題作が、5月と6月に続けて上映される。ともに世界初登頂という歴史的な「大事件」を素材にしているだけに、映画ファンにも山好きにも見逃せない映画である。

『ビヨンド・ザ・エッジ』歴史を変えたエベレスト初登頂』は、イギリスが国の威信をかけて人類未踏の8848mの頂点に挑み、数々の苦難を乗り越えて、1953年5月29日、ヒラリーとテンジ

ンが初登頂に成功するまでの姿を克明に追つたものだ。2人の登頂へのひたむきな姿、内面の心の葛藤にもスポットを当てて、その苦難と喜びを描いている。

しかし、この映画の最大の見どころは、53年の秘蔵のオリジナル映像にあると言つても過言ではないだろう。カラーフィルムで撮影された映像は、非常にいい状態で保存され、しかも最近、修復作業までされていたという。この当時のアーカイブ映像を見ただけでも、劇場に足を運んだ価値は十分にあると思われる。しかも王立地理学協会が所有しているという登山中に撮影された1000枚を超える35mmのカラー写真に加え、下山後、登山隊のメンバーそれぞれが行なったインタビューが残つていて、この映画に厚みをもたらした。さら



「春を背負って」6月14日より全国東宝系公開
©2014「春を背負って」製作委員会

上映全16作品概要(制作年代順) 上映日時、詳細は公式HP www.yamaeiga.comへ

「雪の立山、針の木越え」(1923)	大正期に冬山登山を撮影。日本の山岳映画の原点といえる記録映画。
「雪の薬師、槍越え」(1923-4)	「雪の立山、針の木越え」に続いて撮影された貴重な記録映画。
「聖山」(1926・ドイツ)	先駆者アーノルド・ファン監督による「山岳映画」の誕生を告げた伝説的名作。
「死の銀嶺」(1929・ドイツ)	世界初の冬山航空撮影を行なった映画で、昭和5年に日本でも大ヒット。
「モンブランの嵐」(1930・ドイツ)	後に映画監督として有名になったレニ・リーフェンシュタールが主演。
「新しき土」(1936・日本/ドイツ)	16歳の原節子が振袖姿で北アルプス・焼岳を登る。日本初の国際合作映画。
「銀嶺の果て」(1947)	戦後初の山岳映画で三船敏郎のデビュー作。黒澤明が脚本。
「氷壁」(1958)	有名なザイル切断事件を題材にした井上靖のベストセラー小説を映画化。
「黒い画集 ある遭難」(1961)	松本清張原作。山岳遭難とミステリーが緻密にミックスされた名作。
「山の讃歌 燃ゆる若者たち」(1962)	篠田正浩監督作品。登山に挑む若者を親子の葛藤を織り込んで描く。
「八甲田山」完全版(1977)	公開時のカットシーンを復元した「完全版」をニュープリント35mmフィルムで上映。
「聖職の碑」(1978)	新田次郎原作。小学校の修学登山中に起きた遭難事故の顛末を描くヒューマン・ドラマ。
「植村直己物語」(1986)	エベレスト、アラスカ、北極などで極地ロケを敢行した話題の超大作。
「アイガー北壁」(2008・ドイツ/オーストリア/イスラエル)	アルプス登攀史上最大の悲劇と呼ばれた実話を最新の技術で映画化。
「剣岳 点の記」(2009)	『八甲田山』『聖職の碑』を撮った名カメラマン木村大作の初監督作品。
「ヒマラヤ 運命の山」(2009・ドイツ)	標高差4500mの壁に挑んだ登山家メスナーの実話。圧倒的な山岳映像。

再現映像を加えるという試みが、ドキュメンタリーでありながらドラマでもあるというユニークな映画に仕上がっている。

一方『K2 初登頂の真実』は、その副題が示すように、54年のイタリア隊の初登頂にまつわる登山家たちの葛藤と離婚を描いた映画である。「悲情の山」と恐れられたいたK2の、名譽ある初登頂を果たしたのはアッキレ・コンパニヨーニとリノ・ラチエデリの2人。本来なら国を挙げて祝福されるはずだったが、イタリアは「登頂は隊全体の名譽」として、その名前を公表しなかった。初登頂をめぐるクライマーたちの疑惑、名譽を懸けて長年争われた訴訟……。

初登頂にまつわる疑惑は氷解することもなく、謎は深まるばかりだが、ストーリーは映画に譲るとして、ここではこの映画の主人公でもあるワルテル・ボナッティにも触れておきたい。彼は、2011年9月13日、ガンのために81歳で亡くなってしまった。来日した折、私も岩木山での山登りに同行させてもらったことがある。飾らない気さくな人柄が、日本の多くの岳人にも好印象を残して

いるはずだ。登山史上の著名な登山家がまた一人逝ってしまった。

『剣岳 点の記』で大ヒットした木村大作監督の『春を背負つても』も、稜平氏の了解を得て、舞台を奥秩父から北アルプスの立山に移し、山小屋での人ととの温かい心の触れ合いをテーマにしている。

『八甲田山』『鉄道員』など数々の名作を生み出してきた名カメラマンの力量は、この『春を背負つて』でもいかんなく發揮されている。北アルプス北部の中心に位置する大汝休憩所を舞台にしているだけに、その映像の美しさ、素晴らしいさが木村大作どうならせる。「山を撮るなら立山連峰しかない。360度どこを切り取っても画になる」という

監督の言葉どおり、雄大な立山の自然が画面いっぱいに展開される。

映画好き、山好きに堪えられないのが、4月19日から5月2日まで東京都写真美術館ホールで上映されるのが、4月26日14時の1回限りの特別上映である。

今回、この山岳映画特集を企画したドイツの先駆者アーノルド・ファンクの主要作品。そして戦後初の山岳映画『銀嶺の果て』をはじめ、『水壁』『八甲田山』『植村直己物語』『剣岳 点の記』など日本映画の名作が続く。『アイガー北壁』や『ヒマラヤ 運命の山』のように、登山史に基づいて制作された話題作の数々。合計16の作品が、2週間にわたって複数回上映される。見逃している映画爱好者にはたま

「19世紀末に誕生した映画の100年を超える歴史のなかで、山を舞台にした作品は、ごく初期のころから登山やスキーの愛好者の手で記録映画が撮影されていたんですね。やがて大規模な映画の興行が事業化されるようになる20世紀初頭には、劇場用映画作品として極地や辺境の山を舞台にしたドラマ作品が作られるようになり、以来

映像の美しさ、素晴らしいさが木村大作どうならせる。「山を撮るなら立山連峰しかない。360度どこを切り取っても画になる」という監督の言葉どおり、雄大な立山の自然が画面いっぱいに展開される。映画好き、山好きに堪えられないのが、4月19日から5月2日まで東京都写真美術館ホールで上映されるのが、4月26日14時の1回限りの特別上映である。

ところで、これだけ多くの一連の山岳映画を俯瞰して見ると、「人はなぜ山に登るのか」という永遠のテーマに行き着くことになろう。「人間のドラマ」にキーワードがあるような気もあるが、映画を見ながら、その隠された課題に思いを巡らせてみてはどうだろうか。いずれにしても、実際に映画館に足を運んで映画を楽しんでみてもらいたい。

らない企画であろう。
簡単な映画の紹介は、一覧表を参考にしていただくとして、今回の企画で特に注目したいのが、貴重な初期のドイツ映画『聖山』『死の銀嶺』『モンブランの嵐』の3作品。どれもアーノルド・ファンクの監督作品であり、後に映像作家として有名になつたレニ・リーフエンシュタールが主演している話題作である。また『雪の立山』『針の木越え』『雪の薬師、槍越え』の2作品は、ともに大正後期、積雪期の北アルプス踏破に挑んだ一行の姿を35mmフィルムに記録、日本の山岳映画の原点ともいわれるもの。

作品解説のトーケンショーンもあり、4月26日14時の1回限りの特別上映である。

そこでは、これだけ多くの一連の山岳映画を俯瞰して見ると、「人はなぜ山に登るのか」という永遠のテーマに行き着くことになろう。「人間のドラマ」にキーワードがあるような気もあるが、映画を見ながら、その隠された課題に思いを巡らせてみてはどうだろうか。いずれにしても、実際に映画館に足を運んで映画を楽しんでみてもらいたい。

110周年記念海外登山隊の募集

日本山岳会は、創立以来の海外登山の輝かしい歴史を有していますが、これまでに世界のほとんどどの高峰が登られてしまつたことや海外登山の形態が大きく変化してきたこともあり、近年は海外登山の派遣が減少してきました。

このたび110周年記念事業の一環として以下の海外登山隊を募集し、選考された登山隊に対しても助成金を交付しますので、積極的に応募してください。

記

1 支部海外登山隊

海外登山に目を向けてもらうとともに支部の活性化に資することを目的とし、支部が主体的に実施する海外登山隊を募集します。

初登頂や難易度等にはこだわりませんが、単なるトレッキングあるいは観光的な登山は助成の対象とはなりません。安全、自然保護への配慮等も含めた、日本山岳会らしい海外登山を期待しています。

● 募集スケジュール

① 平成26年度派遣登山隊

- ・募集期間 平成26年4月1日～平成26年6月30日

- ・審査と発表 隨時審査し、発表する。

- ② 平成27年度派遣登山隊
- ・募集期間 平成26年7月1日～平成26年12月31日
- ・審査と発表 隨時審査し、発表する。

- ③ 平成27年度学術調査登山隊
- ・募集期間 平成26年4月1日～平成26年7月31日
- ・審査と発表 隨時審査し、発表する。

2 学術調査登山隊

これまでにも日本山岳会は多くの学術調査登山隊を派遣、そのたびに優れた実績と調査報告書を作成、発表してきましたが、今回は

- 「公募」を前提として、発想がユニークでテーマの斬新さ、おもしろさに最重点を置くことを特徴としています。未知、未踏と言われる地域がほとんど見込めない現代における学術調査登山隊の派遣は大いに期待されます。
- ① 調査実施時期 平成27年度中に実施する
- ② 募集期間 平成26年4月1日～平成26年7月31日
- ③ 審査と発表 平成26年9月中に審査し、理事会で決定。J A C会報「山」に発表。

3 極限探求登山隊

日本山岳会では平成元年より、海外登山基金制度からの助成を長年にわたつて行ない、各方面から大きな評価をいただいています。

ギリギリボーグほか近年、高難度の高峰登山を継続的に行なつて

① 「公募」ではあるが、なんらかの形で「役に立つ」ものであること。ただし、あまり学術にこだわり過ぎて専門的なものは避けたい。

② テーマの斬新さ、おもしろさを最重視する。地理的な発見がほとんど見込めない現在、発想のユニークさが重要なポイントになる。

③ グローバル化した時代の要請に応えるためにも、「環境」「国際協力」もある程度、視野に入れてものこと。

④ 内容、発想ともに優れたものは、市販できるような報告書を作成。

いる日本人クライマーたちが、ビオレドール等世界的な権威ある登山賞を受賞しており、その多くが海外登山基金の助成対象登山隊であったことは、私たちの限りある資金が若い優秀なクライマーたちの育成に有効に役立つていることを意味しています。

近年の先鋭的な登山は、少人数、軽装備で実施している傾向がありますが、それでも多くのクライマーにとって海外登山は費用のかかる大事業に変わりありません。10周年では、これまでの海外登山基金助成事業の拡大版として、

- 基本コンセプト

日本人クライマーたちの活躍をサポートし、困難を求めての挑戦、新しい課題への挑戦、ユニークで、イオニアワークにあふれたチャレンジングな登山隊を募集します。

●募集スケジュール

①第1次募集

- ・登山実施時期 平成27年2月1日～平成27年7月31日の期間での出発

・募集締切 平成26年12月1日

- ・審査と発表 平成26年12月中に審査し、理事会で決定

②第2次募集

- ・登山実施時期 平成27年8月1日～平成28年1月31日の期間での出発

・募集締切 平成27年6月1日

- ・審査と発表 平成27年6月中に審査し、理事会で決定

なお、助成対象隊には、以下の条件を了承していただきます。

①登山計画書の表紙および文章中、登山隊名の一部に「日本山岳会」の文字を記載する。

②登山隊が中止または延期になつた場合は、原則全額返金していただく。

③登山隊の対象とする山またはルーム

(110周年記念事業実行委員会)



開設された四国支部のルーム

■申込方法

所定の様式（事務局にご請求ください）に内容の概略を記入し、計畫書を添えて申請してください。

■問合せ・申込先

日本山岳会事務局

TEL 03-3261-4433

詳細はHPをご覧ください。

④登山報告を1200字程度の原稿にして、会報「山」に出稿・掲載する。その際、「この登山隊は公益社団法人日本山岳会海外登山基金の助成を受けております」というクレジットを文中に記載する。

⑤各種登山報告会および年次晚餐会の報告会に講演依頼があつた場合は、できる限り協力する。

また助成金の金額は、その内容によって支給されるものとし、随時、会報「山」で発表いたします。 続いて学生部・若手会員登山隊の募集も行ないますが、詳細は追って発表いたします。

四国支部が2月、ルームを徳島県東部の徳島市川内町に開設した。仁木稔会員が管理する平屋建て建物のほとんど（約76平方m）を無償利用させてもらうかたちで、会議室（約40人）、応接室（約10人）、資料閲覧・共同装備保管室、電気・ガス・水道完備のキッチン、電話・ファックス、テレビ、インターネット、トイレのほか、駐車場（約30台）がある。四国支部会員が一年中、自

支部ルーム開設

四国支部

N

東西南北

S

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。（紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度でお願いします）

由に使うことができる。

会員有志の情報交換会を行つたほか、2014年度総会を開催する予定。今後、さまざまな会議や山行の待ち合わせ、他支部・他団体との交流にも活用する。近くには大型入浴施設やスーパー・マーケット・コンビニがあるため、マットとシュラフを持参すれば自炊・宿泊することもできる。徳島市中心部のJR徳島駅から車で約15分、主要幹線道の国道11号や徳島自動車道・徳島ICから約8分の距離にある。

仁木会員は、剣山山系の二嶺の北麓登山口（三好市東祖谷山管生）で管理している山荘「菅生ロッジ」も、四国支部設立当初から無償で提供してくれている。定例山行や個人山行のベースキャンプとして利用したり、「子ども登山学校」を開いたりして活用している。

ルーム、山荘ともに支部の資産

ではないものの、1年中、24時間にわたって自由に利用できる点で支部活動を間違いなく有意義にしてくれている。今後、管理方法を

支部



だより

全国各地の支部から、それぞれの活動状況を、北から南へとリポートします。

きちんと決め、一層、積極的な利用方法を検討したい。
(瀧由喜子)

福岡支部

岳人のつどい 「山の講演会」開催

福岡支部恒例の「岳人のつどい」が、今年も2月9日(日)午後2時から福岡県太宰府市の太宰府館・まほろばホールで開かれ、会員外の登山愛好家も含めて約160人が参加した。

今回の目玉は「山の講演会」。倉智清司会員の巧みな司会で始まった。「つどい」では、まず中馬董人福岡支部長の挨拶があり、続いて福岡支部事務局長の渡部秀樹氏(福岡登高会会員)による講演が、「世界の山々を歩いて」と題して、美しい山々の映像上映を伴いながら

ら行なわれた。

氏の山行歴は、国内のほか海外渡航50ヶ国、200回以上、世界各地に登山、トレッキング、奥地調査行のリーダーとして足跡を残している。特にブータン、ラダックを含むチベット文化圏へは、宗教や文化の調査研究を兼ねて、約30年間で50回を超える。

講演は、①「世界の山々を歩いて」、②「探検的山旅—高緯度の山に遊ぶ」の2部構成で行なわれた。まず、イスをはじめとするヨーロッパ・アルプスやピレネー、さらには北米・ロッキー山脈やグランドサーカル、南米、ユージーランド・サザンアルプス、ネバール・ヒマラヤに至るまで、自ら歩いて見てきた体

さらに探検的山旅をテーマに、北極圏グリーンランド、カムチャツカ半島、アリューシャン列島、スピツベルゲン島、アフリカ・ルウェンジリ、アルジェリア・サハラ砂漠、ベトナム・ファンシーパンからチベットの山域に至るまで、自らの経験に基づいて熱く語つもらつた。

特にヒマラヤの東に位置するカンリガルポ山群については、福岡支部が5次にわたって調査隊を送り、未踏峰のゲムソング峰(6450m)初登頂計画を立てた経緯があるだけに熱がこもつていた。

講演会終了後、午後5時から同会場で懇親会(岳人のつどい新年会)が開かれ、56人が参加。2時間にわたって、山を愛する者同士で新春を祝い、山の話を咲かせて交流を深めた。会場では、世界の山・ミニ写真展も同時開催され、講演会と併せて大変好評だった。

北九州支部 門司区の風師山に植 有恒氏 の略歴碑

マナスルに初登頂した日本隊の隊長を務めた元日本山岳会会長、横有恒氏の功績を伝える略歴碑が3



渡部秀樹氏の講演

なお、福岡支部主催のこの「岳人のつどい」には、九州登山情報センター(山の図書館)の後援、福岡県山岳連盟と福岡県勤労者山岳連盟の協賛をいただき、福岡地区の幅広い岳人の集まりとなつた。

(高木莊輔)



横さんの略歴碑



除幕式には多くの岳人が参集した

月21日、門司区の風師山(362m)山頂に設置され、除幕式が行なわれた。風師山山頂には、すでに横氏来訪の記念碑が設置されている。昨年2月末、森武昭会長(当時、常務理事)が風師山に登られたときに「最近の若い人は、横さんがどんな人だったか分からぬ。寂しいね」と言われたことがきっかけになり、日本山岳会北九州支部と地元山岳会本山岳会が開催された。

閔口北九州支部副支部長の司会により、森会長 地元山の会代表により日本山岳会旗が除幕され、ステンレスでできた略歴碑が姿を現す。除幕後、森会長により横氏の紹介と想い出、風師山早朝登山会代表世話人の菱田哲郎氏は堤甚五郎元風師山早朝登山会会长の想い出、北九州支部の丹下治氏が略歴碑設置の経緯について話された。記念碑、略歴碑はいつまでも大切にして、横氏の功績を後世に伝えようと締めくくり除幕式は終了した。

(竹本正幸)

が協力して略歴碑が併設されることになった。

当日は午前10時より閔門海峡からの強風とミヅレ交じりの天候の中、本部から森会長が参加され、地元の登山愛好家や日本山岳会のメンバーら60人が集まり、除幕式が行なわれた。略歴碑は縦100cm、横70cmのステンレス製。近代アルピニズムの開拓者・紹介者など横氏の功績やマナスル初登頂を報告するため、九州各地を訪問し、閔門海峡を見渡す風師山に登ったことなどが記されている。

閔口北九州支部副支部長の司会により、森会長 地元山の会代表により日本山岳会旗が除幕され、ステンレスでできた略歴碑が姿を現す。除幕後、森会長により横氏の紹介と想い出、風師山早朝登山会代表世話人の菱田哲郎氏は堤甚五郎元風師山早朝登山会会长の想い出、北九州支部の丹下治氏が略歴碑設置の経緯について話された。記念碑、略歴碑はいつまでも大切にして、横氏の功績を後世に伝えようと締めくくり除幕式は終了した。

著者の高澤光雄氏は、北海道の登山資料の熱心な収集者であり、多くの著作で登山史をまとめてこられた人だが、俳人でもある。本書のカバー「樽前山」(水彩画)も同氏の筆によるもので、多才さにあきれる。

本書に収録された「山旅」と「山岳俳句」に関するエッセイと紀行は、著者が所属する結社・道の句誌『道』に13年余にわたって連載されたものと新たに書き加えた100篇とのことである。

著者の旅の足跡が、ネパール、ブータン、米国、カムチャツカの山々や、北海道はもとより国内の隅々

まで及んでいてびっくりする。秋の恐山、俱利伽羅峠、小松市の芭蕉句碑などまめまめしい取材の旅なのである。

「日本百名山の四阿山」は、深田百名山を巡る初秋の山旅で、晴天の下、四阿山頂上の大展望を堪能して、花童子の榮華を偲ぶ秋の蝉

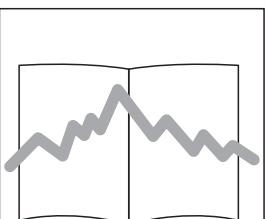
光雄
「深田久弥と山岳俳句」は、深田氏と著者との出会いが語られ、北海道の山へ同行した帰途に、深田氏が詠んだ軽妙な句が紹介されている。また、「山岳俳句の台頭」は、松尾芭蕉・石橋辰之助ほかの秀作12句を挙げて、肩の凝らない俳論となっている。「山岳俳句のすすめ」では自作の5句を掲出している。

防人の比羅夫の像や散る紅葉 山岳俳句をたしなむことを薦め

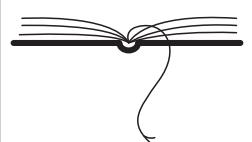
(松澤節夫)



2013年10月発行
北海道出版企画センター刊
A5判 225頁
定価1800円+税



図書紹介



『心に映る山』

中村好至恵・著



2014年2月
白山書房刊
B5判変型 114P
定価 1800円+税

画文集である。著者は武藏野美術大油絵学科卒。30代になつてから山に惹かれたという。自然界に触れて波長が合つたのか、自分の立ち位置が決まつたようだ。山登りを楽しむと同時に山や植物などに題材を見出して、個展・グループ展で発表してきた。季刊誌『山の本』にも作品を発表しているがそれを核としてその他の作品（絵と文）を合わせて編んだ著作。

画家が絵を発表するのは当然だが、不思議なことに絵描きには文章の上手な人が多い。山の世界でも足立源一郎、坂本直行、上田哲農、山里寿男、畦地梅太郎、加藤泰三、辻まことなど、いずれも独特の味わいのある文章を書く。この著者の場合にも同じことが言える。

「春夏秋冬」「心に映る山」「山の文帖」「挿絵」「山の話」と5つの章で構成されているが、それぞれが絵と文との協奏になつていている。

画家が絵を発表するのは当然だが、不思議なことに絵描きには文章の上手な人が多い。山の世界でも足立源一郎、坂本直行、上田哲農、山里寿男、畦地梅太郎、加藤泰三、辻まことなど、いずれも独特の味わいのある文章を書く。この著者の場合にも同じことが言える。

（大森久雄）

収録されている絵は、爽やかに、静かに、柔らかく四季の山の気を表現して楽しませてくれる。そしてそこに、つぶやきのような短文からコント風の山便りまで、いずれも簡潔・的確な表現の文が寄り添う。帯にはそれが「絵とことばの二重奏」「山の絵にことばが寄り添う画文集」「聴こえるでしようか山のささやき」「絵筆が奏でる山の音色」と表現されている。的を射た内容紹介だが、どれにも「音」がからんでいることに注目したい。この著者は「音」に対し優れた感受性を持っているようで、収録されている絵にもことばにも、通奏低音のようく音楽的な響きが流れている。この本は、絵とことばと音楽との三重奏とも言える。

すべてが静かで穏やか。絵にも文にも勇壮な、おおげさな世界はない。騒がしい世間とは隔絶している。山に行く時間がとれないとき、あるいは心屈したとき、この本を開けば、静謐で貴重な、無くしてはならない世界に憩うことができるにちがいない。

図書受入報告(2014年3月)

編 著 者	書 名	ページ/サイズ 発行元	刊行年	寄贈/購入別
東京都写真美術館 (編)	黒部と槍:冠松次郎と穗苅三寿雄	203p/25cm 東京都写真美術館	2014	発行者寄贈
北山クラブ (編)	北山に入る日:京都北山の詩人・金久昌業のことば	162p/26cm 北山クラブ	2014	発行者寄贈
長岡ハイキングクラブ (編)	山なかま:室賀輝男さん追悼誌	223p/26cm 長岡ハイキングクラブ	2014	発行者寄贈
権藤司 (編)	山から始まる自然保護:山の自然学クラブ会報(第13号)No.13	180p/30cm 山の自然学クラブ	2014	発行者寄贈
早稲田大学岳友会 (編)	火山からの贈り物 -風・さわやか霧ヶ峰で学ぶ『火山灰』と『黒曜石』	48p/30cm 早稲田大学岳友会	2013	発行者寄贈
早稲田大学岳友会 (編)	「くろよん」と私 -私のかかわった「くろよん」	44p/30cm 早稲田大学岳友会	2013	発行者寄贈
衛藤征士郎 他 (監修)	いま「山の日」制定:「山の日」祝日化の論点	151p/21cm 書苑新社	2014	発行者寄贈
松尾良彦	写真と年表で見る九州登山史:九州の<山と人>の記録	192p/26cm 権歌書房	2014	出版社寄贈
下田俊幸 (編)	「登山を樂しくする科学(VI)」フォーラム:2014年3月15日(土)	17p/30cm JAC科学委員会	2014	当会発行
和田城志	姉沢幻視行:山恋いの記	367p/21cm 東京新聞	2014	出版社寄贈
青山学院大学山岳部 (編)	ひるがえる部旗:2013青山学院大学第2次アウトドア登山隊報告書	79p/30cm 青山学院大学山岳部	2014	発行者寄贈
Ian R. Mitchell	Prelude to Everest :Alexander Kellas, Himalayan Mountaineer	288p/24cm Luath Press	2011	購入
Wade Davis	Into the Silence :The Great War, Mallory and the Conquest of Everest	655p/24cm Bodley Head	2011	購入
Peter Zuckerman	Buried in the Sky	285p/21cm Norton & Company	2012	購入
Tom Walker	The Seaventymile Kid	301p/23cm Mountaineers Books	2013	購入
Harriet Tuckey	Everest : The First Ascent	400p/24cm Rider	2013	購入
Jim Perrin	Shipton & Tilman : The Great Decade of Himalayan Exploration	412p/24cm Hutchinson	2013	購入
Tim Hannigan	Murder in the Hindu Kush :George Hayward and the Great Game	254p/24cm History Press	2011	購入
D.Bhalla, K.Verma	East of Kangchendzonga	432p/23cm Kaleidolndia	2011	購入
D.Bhalla, K.Verma	Brahma's Creation	432p/23cm Kaleidolndia	2011	購入
D.Bhalla, K.Verma	Children of the Dawn	432p/23cm Kaleidolndia	2011	購入

宮坂七郎・著

**『信州の山』北信・東信編
同 中信・南信編**



2013年8月
信毎書籍出版センター刊
A4判 北信・東信編186頁
中信・南信編192頁
定価各2000円+税

山小屋や山の麓の登山口でよく目にする手書きの絵地図。多くは山小屋の主人や地元の登山愛好家が実際にその山に登つて書き上げたものである。絵地図は登山道やコースの様子が登山者の視点で描かれているので地形図と併用して使うと、とても役に立つ。なによりも地形図にはない、人の手のぬくもりが感じられるのが楽しい。

これまで、手書きの絵地図はなかなか本になることがなかつたが、このたび信州の山430山について描かれた絵地図が北信東信編・中信南信編の2冊にまとめられ、『信州の山』として信毎書籍出版セントラから出版された。絵地図を描いたのは伊那市在住のベテラン登山愛好家、宮坂七郎氏。登山を始めて47年、その間に自らの足と目で記録してきた長野県内の山の情報がカラフルな絵で楽しく、わ

かりやすく描かれている。

山へのアクセス、トイレ、駐車場、登山口の情報はもちろん、目安となる歩行時間、目印や見どころが立ちとうである。また、北アルプスや南アルプスなどの著名な山だけではなく、地元の登山愛好家でなければならないようなマイナーナイベテランまでその場で役立つ絵地図ガイドブック」とあるが、まさにそのとおりといつていだろう。

ただ、本書に収められた絵地図には評者がその山を歩いたときに感じた印象と違っている部分がしばしば見受けられた。おそらく本書に収められた山を登つたことのある人には同じような感想をもらす向きも少なくはないだろう。しかししながら、人によって登つた山の印象が違うのはあって当然のことであり、納められている絵地図はあくまでも宮坂氏の視点で描かれたものなのである。そこを押さえずに、やみくもに本書をガイドとして利用するのは賢いことではない。

いずれにしても本書は手作り感たっぷりの楽しさ満載の本である。
無味乾燥なガイドブックに飽きた

人には、ぜひ手に取つてページを開くことをお勧めしたい。
(近藤雅幸)



**平成25年度第11回(3月度)理事会
議事録**

日時…平成26年3月12日(水)19時～
21時50分

【出席者】森会長 節田・黒川・古野各副会長、高原・吉川・佐藤各常務理事、大槻・落合・勝山・川瀬・直江・野口・山賀・山田各理事、吉永・浜崎各監事

業について(吉川)

別添資料により担当理事が説明し、当会110周年記念事業の一環として実施すること、および参加隊員の旅費自己負担分について詳細に検討した。
(承認)

3・入会希望者について(高原)

27人の入会希望者があつた。

(承認)

[協議事項]

1・当会主催山行における山行連絡および事後連絡フローについて

(川瀬)

別添資料により支部・委員会等への周知を経てから実施する。また、当資料の位置づけ等について協議した。

2・委員会規程について(高原)

別添資料により担当理事が説明し、詳細に検討した。
(承認)

2・埼玉支部5周年記念チユルー

最東峰登頂とトレッキング遠征事

1・平成26年度事業計画書・予算書(案)について(高原・吉川)

書(案)について(高原・吉川)

別添資料により担当理事が説明し、詳細に検討した。

(承認)

2・委員会規程について(高原)

別添資料により担当理事が説明し、詳細に検討した。

(承認)

2・埼玉支部5周年記念チユルー

最東峰登頂とトレッキング遠征事

内容をさらに検討し、次回理事会において審議することとした。

3・秩父宮記念山岳賞実施規程について(黒川)

今年度は従来どおりとし、来年度以降に規程の見直しを検討することにした。

【報告事項】

1・PT、WG(110周年、「山の日」制定、家族登山、ルーム検討)から、その後の進捗状況について報告があつた。(黒川、山賀、吉川、高原)

2・関西支部からの支部事業補助金申請について、補助の目的に沿つた内容での再提出を要請した。(森)

3・一般財団法人白神山地財団からの助成金受入れについて報告があつた。(吉川)

4・山研水道工事に関する関係省庁との調整状況・工事日程等について報告があつた。(大槻)

5・本部役員派遣依頼があつた北九州支部、広島支部の行事に、会長が参加することとした。(高原)

6・稟議書の導入、会費の銀行口座引き落とし制度の導入、理事の職務権限規程、理事会運営方法の改善等について、検討状況の報告があつた。(吉川)

7・平成26年度新永年会員該当者は49名であるとの報告があつた。

(高原)

8・除籍予定者が52名(平成26年3月末会費滞納の場合)との報告があつた。(高原)

(高原)

9・会員名簿発行は、所要経費・個人情報の取扱い等の問題があるため、全会員配布用の会員名簿は発行せず、支部・本部委員会等、事務上必要な場合に限定して、会員番号・氏名・連絡先のデータを提供するとの報告があつた。(佐藤)

10・新入会員オリエンテーションを支部において随時実施できるよう、本部作成の資料を支部に提供する。本部においては、7月5日(土)に実施する。(佐藤)

11・会員管理システムのシステム管理者を変更するとの報告があつた。(高原)

12・当会所蔵の図書を、東京都写真美術館において展示するため貸出した。(節田)

13・事務局職員の平成26年度職員給与について報告があつた。(高原)

14・新コピー機を導入したことについて報告があつた。(高原)

15・山岳関係者を招いてネパール大使レセプションが開催され、当

会から役員4名参加した。(高原)

16・日本労働者山岳連盟から第31期役員名簿が送付された。(高原)

17・ネパール山岳協会から新役員の名簿が送付された。(高原)

18・尾瀬を守る会から環境大臣に提出した提言が送付された。(高

原)

19・会報2月号訂正および3月号の発行について報告があつた(節田)

20・日山協との連絡会3月17日(月)

21・横有恒氏記念碑説明文看板除幕式(北九州支部)3月21日(金)

22・内閣府への平成26年度事業計画書、予算書提出3月28日(金)

23・全国支部会議(支部事務局会議)9月20(土)~21日(日)

24・全国支部会議(支部事務局会議)9月20(土)~21日(日)

25・内閣府への平成26年度事業計画書、予算書提出3月28日(金)

26・内閣府への平成26年度事業計画書、予算書提出3月28日(金)

27・内閣府への平成26年度事業計画書、予算書提出3月28日(金)

28・内閣府への平成26年度事業計画書、予算書提出3月28日(金)

29・内閣府への平成26年度事業計画書、予算書提出3月28日(金)

30・内閣府への平成26年度事業計画書、予算書提出3月28日(金)

31・内閣府への平成26年度事業計画書、予算書提出3月28日(金)

32・内閣府への平成26年度事業計画書、予算書提出3月28日(金)

33・内閣府への平成26年度事業計画書、予算書提出3月28日(金)

34・内閣府への平成26年度事業計画書、予算書提出3月28日(金)



13日	12日	11日	10日	9日	8日	7日	6日	5日	4日	3日	2日	1日
地理クラブ	フォトビデオクラブ	山岳研究会	休山会	山想俱楽部	山岳研究会	スケッチクラブ	学生部	YOUTH CLUB	図書委員会	高尾の森づくりの会	青年部	総務委員会
地理クラブ	フォトビデオクラブ	山岳研究会	休山会	山想俱楽部	山岳研究会	スケッチクラブ	学生部	YOUTH CLUB	図書委員会	高尾の森づくりの会	青年部	総務委員会
地理クラブ	フォトビデオクラブ	山岳研究会	休山会	山想俱楽部	山岳研究会	スケッチクラブ	学生部	YOUTH CLUB	図書委員会	高尾の森づくりの会	青年部	総務委員会
地理クラブ	フォトビデオクラブ	山岳研究会	休山会	山想俱楽部	山岳研究会	スケッチクラブ	学生部	YOUTH CLUB	図書委員会	高尾の森づくりの会	青年部	総務委員会

15日	九五会	泉 久恵(7751)
14日	フォトビデオクラブ	山の
17日	自然学研究会	
18日	資料映像委員会	総務委員会
19日	二火会	YOUTH CL
20日	U B	スキークラブ
24日	三水会 青年部	つくも会
25日	委員会 みちのり山の会	科学
26日	緑爽会	スケッチクラブ
27日	デジタルメディア委員会	科学
28日	支部活性化PT	
31日	自然保護委員会	麗山会
28日	海外委員会	高尾の森づ
27日	学生部	山遊会 公益法人
26日	運営委員会	くりの会
25日	難対策委員会	PT
31日	YOUTH CLUB	遭
28日	会員異動(3月分)	3月来室者 468名
物故	川口俊幸(53329)	小野 健(5704)
退会	橋立直保(6218)	矢野賢一(15163)
甘利敬直(6140)	小野 賢(5329)	小野 健(5704)
岐阜	田辺元祥(12848)	村田光昭(12642)

泉 久恵(7751)	前田中庸(7868)	木辺正夫(8251)	長尾武彦(8259)	野澤順治(7837)	坂下真由美(13232)
青森	東京多摩	東九州	越後	千葉	宮崎
細田栄次(13525)	浦田和夫(13530)	細木 隆(13534)	細木 隆(13534)	斎藤浪子(13326)	西村信子(13520)
静岡	北九州	北九州	北九州	北海道	北海道
佐々木幸雄(9805)	林辰夫(10091)	佐々木幸雄(9980)	佐々木幸雄(9980)	池田智恵(9660)	池田智恵(9660)
山陰	京都・滋賀	北海道	北海道	北海道	北海道
早崎裕久(10194)	足立孝也(10256)	森 博(10245)	森 博(10245)	江倉則和(13696)	江倉則和(13696)
藤宗正彦(10266)	藤原登(11011)	佐藤美男(10371)	佐藤美男(10371)	西村俊二(13810)	菊池 玲(13624)
足立孝也(10256)	秋田	金豊治郎(10832)	丸尾龍一(11538)	中原邦男(14206)	中原邦男(14206)
東京多摩		佐々木まさ子(11201)	佐々木まさ子(11201)	中岡邦男(14206)	中岡邦男(14206)
		宮城	宮城	北九州	北九州
			岩崎真知(11604)	川久保忠通(14221)	川久保忠通(14221)
			丸尾龍一(11538)	梅村昭治(14364)	梅村昭治(14364)
			藤川裕子(12499)	坂井正一(14490)	坂井正一(14490)
			中島眞一(11770)	加藤健樹(14501)	加藤健樹(14501)
			岩崎真知(11604)	加藤百合子(14559)	加藤百合子(14559)
			岐阜	熊本	熊本
				福田陽子(14807)	福田陽子(14807)
				神野洋通(15005)	神野洋通(15005)
				東海	東海
				森田真史(15048)	森田真史(15048)
				園部 保(15054)	園部 保(15054)
				広島	北海道
				村田幸子(15084)	村田幸子(15084)
				川本欽也(15327)	川本欽也(15327)



第16回「秩父宮記念山岳賞」の推薦募集について

秩父宮記念山岳賞審査委員会

第16回「秩父宮記念山岳賞」の推薦(他薦に限る)をこのとおり受け付けますので、事務局まで資料をご請求ください。

当会のHPを活用される方は、推薦募集の詳細を掲載しておりますので、推薦要項・所定様式(ダウンロード可能)などご参照ください。

多数の推薦をお待ちしております。

本賞は公益目的事業でありますから、受賞者を本会員またはグループに限定しておりません。

○対象分野 ・登山活動

・山岳に関する文化的活動、学術的業績

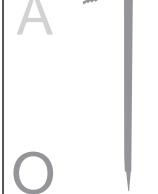
○提出先 日本山岳会内 秩父宮記念山岳賞事務局

○締め切り 平成26年8月31日

◆「山研」平成二十六年度開所案内
4月の最終週末に山研周辺の除雪、建物の雪廻い撤去、飲料水確保などの開所準備を行います。会員の利用開始は4月28日(月)を予定しています。利用の申込みは従来どおりです。

山研運営委員会

INFORMATION



◆新入会員のための企画「徳本峠越えとウェストン祭」
山研委員会

E-mail : yakumoyamada@t00.iiscom.net
(ハイヤロセロ)

おり直接山研(TEL 0263-95-2533)で受け付けます。なお、開所から5月6日(火)までの利用については、事務局(TEL 03-3261-4433)に申し込んで下さい。

◆探索山行の「」案内 科学委員会

活火山浅間山の噴火歴を訪ねます。往復チャーターバス利用、倉渕温泉はまゆう荘に宿泊。

日程.. 14日(土)～15日(日)
日時.. 6月14日(土)～15日(日)

場集合。7時30分出発～鬼押出し、浅間火山博物館、見学。小浅間山登山。15日
= 8時発～9時30分黒斑山登山口発～黒斑山山頂
(昼食)～14時登山口帰着。
19時池袋帰着。

ウォルター・ウェ斯顿の足跡をたどり、新緑の島々谷から残雪の徳本峠を越えて上高地入りします。上高地では山研に一泊して翌日「碑前祭」に参加。新会員の仲間づくりを手助けする企画です。

日程.. 5月31日(土)～6月1日(日)
費用.. 1万2000円(1泊2食、午餐会会費、記念品代、傷害保険料)

定員.. 20名(25年度入会の会員および本会会員の希望者)

申込.. 5月17日(土)までに柴山信夫まで。

TEL.. 090-8331-4212
✉.. jac-sanken@jac.or.jp

*現地集合・解散
*申込者に詳細案内を送ります。

◆2014年度登山リーダーのための救急救助講習

集会委員会

登山リーダーが救急救助に関し習得しておくべき知識、スキルお

参加費.. 2万円(バス・宿泊他)
申込.. 5月20日(火)までに山田誠
(探索山行担当)へ
〒152-0023 目黒区八雲2-25-17

よび習得方法等について実技中心に学びます。各種グループで登山リーダーを担う方及びご関心のある方を対象とします。

日時.. 6月22日(日)9～17時
場所.. 別所沼会館・埼京線中浦和駅8分
講師.. 惠秀彦会員(遭難対策委員会)
定員.. 20名
参加費.. 500円
申込先.. 集会委員会 高橋努
TEL.. 090-2906-4356
✉.. tom-tak@bk9.so-net.ne.jp
*参加者に詳細を「」案内します。

日本山岳会所蔵資料紹介 No.10

[資産番号] 10081～10160

[資料名] 茨木猪之吉

[部門名] 絵画

[寄贈者] 横山駒子

[受入日] 2000年10月11日



①下鴨森 (水彩・紙 32.0×50.0)
1904年制作

茨木猪之吉 (1888～1944) の絵画42点が寄贈されている。そのほとんどが未発表・未公開の一級資料である。そのなかより数点を紹介する。茨木については1月(824)号、所蔵資料紹介NO.9に詳しい。

茨木より寄贈された資料(画帳、絵画)は、2002年10～12月に当時の寄託先であった長野県北安曇郡の池田町立美術館にて展覧会が開催され、その後は保管されたままであった。委員会では、この一級資料の保管および公開の場について検討を重ねてきた。結果、近日中に長野県大町市の市立大町山岳博物館に寄託することとし、準備をすすめている。



②上松 (水彩・紙 34.0×50.5)
1907年制作



③題不明 (風景)
(水彩・紙 33.6×49.4)
制作年不明



④岩本村 (水彩・紙 34.0×50.5)
1907年制作



⑤題不明 (風景)
(水彩・紙 50.3×34.3)
制作年不明



⑥題不明 (風景)
(油彩・画布 45.5×53.0)
制作年不明



⑦高原秋景 八ヶ岳高原より
(油彩・板 24.3×33.4)
1933年制作



⑧題不明 (風景)
(水彩・紙 34.5×51.3)
1910年代制作

日本山岳会会報 山 827号

2014年(平成26年)4月20日発行
発行所 公益社団法人日本山岳会
〒102-0081

東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会长 森 武昭
編集人 柏 澄子

Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
印 刷 株式会社 双陽社

● ところで現在、「山」5月号準備中だ。巻頭記事は、大学山岳部の現状レポートを予定している。全国70近い大学にアンケートを依頼したけれど、返信は10校に満たない少なさ。お近くに大学山岳部員がいる方、母校の部と今でもお付き合いの深い方は、ぜひご一報、ご協力ください。
(柏 澄子)

◆編集後記◆